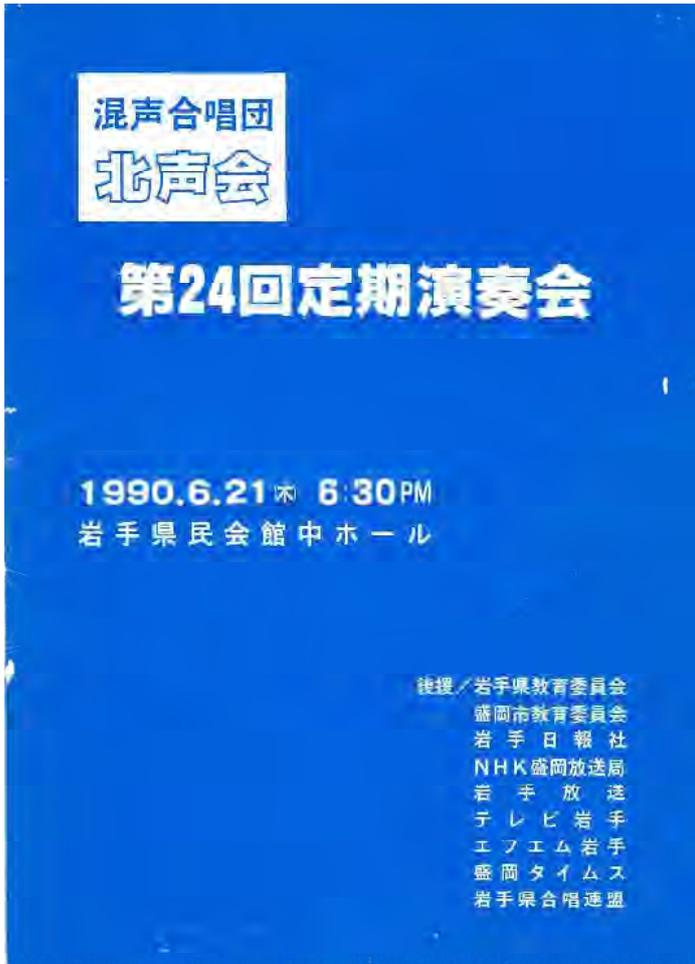


<プログラム>



- 指揮 牛 越 恂
伴奏 渡 辺 直 子
- I. 「こころの詩」
今はもう 大中恩 作曲
ふたりの季節 新川和江 詩
失ってゆく時の きのゆり 詩
子守歌 宮中雲子 詩
素直になりたい 女屋靖子 詩
田中まり子 詩
- II. 瀧廉太郎作品より
懐友 東くめ 作歌 / Justus W Lyra 作曲
四季の滝 東くめ 作歌
春 作歌者未詳・作曲者不明
水のゆくえ 作歌者未詳
花 武島又次郎 作歌
友の墓 小森松風 作歌 / ジェルヘル 作曲
別れのうた 作歌者未詳
月 瀧廉太郎 作歌
雪 中村秋香 作歌
- III. 千葉了道作品より
花の店 安西均 作詩
木枯らし寒く
- IV. ロシア正教聖歌
主の名を賛め崇げよ ベネツキイ 作曲
主の名を讃めあげよ チャイコフスキー 作曲
主の諸僕 作曲者不明
- V. 混声合唱組曲「川よ とわに美しく Part 2」
米田栄作 作詩 / 三枝成章 作曲
1. 八月歌
 2. 燧
 3. 家族 その二
 4. 翠町仮寓
 5. 美しきもの咎め給うな

<団員名簿・出演者名簿>

<指揮者・ピアニスト・役員>

常任指揮者	牛 越 恂
ピアノ伴奏者	渡 辺 直 子
委員長	佐藤 明雄
副委員長	藤井 村井 明雄
会計	藤井 井 妙子
パートリーダー	金 千松 斎金
実行委員長	金 千松 斎金

< Sop >			
阿太菅	部 野	隆 和	代 子
佐々木	中 裕	福 子	子 子
田 田	沼 利	加 子	子 子
赤 藤	沢 昭	子 子	子 子
藤 沢	荒 荒	子 子	子 子
遠 金	藤 喜	美 子	栄 子
駒 高	木 美	和 子	子 子
高 中	館 千	枝 子	子 子
中 藤	村 静	子 子	子 子
藤 井	井 明	子 子	子 子
荒 屋	屋 満	里 子	子 子
< Alt. >			
内 久	田 慈	喜 世	代 子
佐々木	木 和	智 子	子 子
千 三	泥 上	公 裕	子 子
鎌 寒	澤 江	光 子	子 子
関 河	井 井	伶 子	子 子
藤 村	村 和	ト 陽	子 子
大 和	和 光	光 子	子 子
< Ten. >			
尾 高	形 木	利 夫	夫 弘
藤 村	村 直	直 治	美 美
吉 田	田 直	直 美	美 美
佐 福	々 木	壮 一	清 攻
松 坂	田 坂	一 平	攻 平
< Bas. >			
郷 佐	家 藤	和 則	則 洗
藤 齋	藤 原	久 五	宏 正
藤 吉	田 吉	五 郎	郎 郎
金 佐	藤 井	豊 太	郎 郎
照 松	田 隆	勲 一	平 平
金 井	良 一	平 平	平 平

<主な活動> 平成2年 1990年

- 1/28(日) 冬季国体開会式 (県営スケート場) 参加
- 8/5(日) 陸前高田小友町 (千葉了道先生の故郷) で演奏会



ごあいさつ

混声合唱団北声会委員長 佐藤 洸

本日は、北声会24回目の定期演奏会においで下さいまして、誠に有難うございました。

去年は、千葉了道先生追悼のプログラムを組みましたが、今回はさまざまの色合いの曲を集めた演奏となりますので、表現の難しさが伴いますが、果してどれだけやれますやら、とにかく頑張ります。

去年の演奏会の後、千葉先生ご生前に実現できなかった遠野の「福泉寺」行きを実現させ、あの大観音像の前で、千葉先生最後の大曲「十一面観世音菩薩への賛歌」を、感動と共に演奏してきたことは、大きな心の収穫でした。

今年も、いろいろの方面へ出かける予定です。泥臭い団体ですが、どうか末永く御指導下さいますよう、お願い申し上げまして、ご挨拶と致します。

演奏会にあたって

常任指揮者 牛越 恂

「み仏は きょう遂にかも 成れりけり 山上に満てる 喜びの声」森 莊己池作詩、千葉了道作曲『十一面観世音菩薩への賛歌』のフィナーレの、FD₆Fのコードの響きが広い御堂の中にこだまして消えたとき、熱いものが胸からこみ上げ、涙があふれ、「本当に、み仏の前で演奏してよかったなあ」と誰もの口から同じ言葉が出ました。

千葉先生は、生前、是非とも福泉寺に行き、み仏の前で演奏しよう、と口にしておられました。しかし、その希望を果たすことなく、ご逝去になり、私も残念に思っておりましたが、昨年追悼演奏会を行った後、秋には是非とも千葉先生の志を果たそうと、紅葉美わしき頃、遠野の福泉寺を訪れ、先生の希望を果たすことができました。

ピアノが無い場所なので、電子ピアノを、団員のご家族の好意で、ワゴン車で山上まで運搬していただき、また、作詩者の森先生、ご住職の摺石老師も、わざわざ足を運ばれ、み仏の前で演奏致しました。

森先生の温顔、摺石老師の合掌する姿に接したとき、これで千葉先生に、万分の一かの恩返しのできたことと、この曲が千葉先生への鎮魂曲にもなった感激と満足感で、誰の胸にも熱いものがこみ上げたと思います。

北声会とは、こんな合唱団です。コンクールに出場する力量の乏しい、また、演奏会でもあまりパッとしない演奏しかできない指揮者ではありますが、常に、何か感激、感動するものを求めようとしております。

どうぞ今後とも、変わらぬご支援を下さるよう、お願い申し上げます。

